



## 50回記念大会、盛大に開催

公益社団法人日本柔道整復師会第 50 回東海学術大会愛知大会

12 月 6 日 (日)  
午前 10 時から午後  
4 時 30 分まで、公  
益社団法人日本柔  
道整復師会第 50 回  
東海学術大会愛知  
大会が「ウインク  
あいち」2 階大ホー  
ル・5 階小ホールに



て開かれ、学術大会に 890 名 (本会会員 253 名)、日整介護セミナーに 219 名 (本会会員 123 名) が参加し盛大に行われた。東海学術大会としては半世紀の区切りとなる記念すべき大会であり、本県としては中部接骨学会を休止して以来の、公益社団法人設立後の初めての主催となった。



開会式後の午前 10 時 20 分過ぎから、ほぼ満席の A 会場 (大ホール) で特別公演 (一般公開講座) が開催され、「最近のがん医療とがん対策」と題して、愛知県病院事業庁長・愛知県がんセンター名誉総長の二村雄次先生にご講演いただいた。

二村先生はがん罹患率や死亡率などの推移や予測をグラフで示し、胃や大腸をはじめ、ご専門である胆肝臓の内視鏡切除術などの治療法や、「分子標的治療薬」治療成績などを解説された。

またがん検診の推進や受動喫煙防止によるがん対策が進められており、24 年 6 月には「がん対策推進基本計画」が閣議決定され、がんに対する考え方が進化を遂げていると述べられた。

先生は専門分野の難しい内容を、女優の坂口良子さんや元横綱・北の湖相撲協会理事長などの有名人のがんによる死亡例を挙げて、参加した 75 名の一般県民にも解りやすくお話しされた。盛りだくさんの内容を熱く語られ、12 時 15 分好評のうちに終了した。



午後 1 時 10 分から 3 時までで会員研究発表として 10 題の発表が A 会場で行われ、本会から次の 2 題が報告された。

- ・徒手療法が膝伸展筋力に及ぼす要因の一考察 太田昌夫会員 (熱田)
- ・膝窩筋の三次元再構築による構造と機能 大口明良会員 (大曾根)

太田会員は、独自で考案した計測装置と徒手療法による下腿の内旋・内転や膝関節の伸展筋力への関与・効果について検討結果を述べた。

大口会員は、膝窩筋とその周辺構造体を画像処理にて三次元再構築し、構造的特徴による膝窩筋の摩擦抵抗の受け方について考察した。



太田会員 (左) と大口会員

午後 3 時 10 分から 3 時 55 分まで、同じく A 会場で、日整保険部介護対策課・川口貴弘課員による日整介護セミナーが開催され、地域ケア包括システムについてどのように柔道整復師が関係していくのか制度的な内容と具体的な参入事例などが示された。

B 会場 (小ホール 1) では、午後 2 時 30 分から 4 時まで、今回初めて口頭による米田柔整専門学校の学生の 8 題の発表が行われた。船戸嘉忠副校長らの事前の指導により、会員発表を凌駕するほどの充実した発表であった。

4 時から会員・学生両者の表彰式が執り行われ、本学会は盛会裏に幕を閉じた。



日整介護対策課・川口課員

## 認知症サポーター養成研修開催



12 月 18 日 (金) 午後 1 時 35 分から 3 時まで、本会主催の第 2 回認知症サポーター養成講座が会館講堂にて開催され、90 名 (会員 79 名・勤務柔整師 11 名) が参加した。介護部員・機能訓練研修委員

の加藤博史会員が、キャラバン・メイトとして講師を務め、大半を占めた認知症講座が初めてという会員が熱心に聴講した。

加藤講師は、参加者に質問し記憶力を確認したあと、おもな認知症患者の比較、症状、徘徊などの用語などを説明。MCI (軽度認知機能障害) は、歩幅やテンポなどが一定でなくなることで見分けられることや、脳内の神経ネットワークが崩れ一度に 2 つのことができなくなることなど、新たな知見に言及した。

さらに 2 人ひと組のロールプレイング研修が行われ、肯定的な言葉だけで回答ができるような会話を実践した。認知症の人に対する接し方では、こちらから否定をすることは避け、相手からも否定的な言葉を出させないことが基本だという。認知症患者に合わせたケアのポイントや対応の基本姿勢についても解説を受けた。

接骨院に来院される物忘れが激しい高齢者の方にも、認知症の人と同様な対応をしてもらうと、接骨院の評判も上がると締めくくった。

加藤講師の話は、ユーモアたっぷりで真面目な話は少しの対話形式全員参加型の講義形式で、いつ当てられるかと緊張感があり、楽しく有意義な講演内容であった。

12 月 16 日 (水) 午後 1 時 30 分から 4 時 50 分まで、ウインクあいち大ホールにおいて「あいち広域連携シンポジウム」が開催され、本会から小林弘治事業部長が出席した。

一般県民をはじめ、行政・企業・各種団体から 500 名近くが出席するなか、石原君雄・愛知県副知事の挨拶後、今後発生が予想される南海トラフ巨大地震など大規模災害が発生した時の救護活動や支援活動、広域的連携、災害対応力を高めるために、「「国難」災害と広域連携」と題して、関西大学社会安全研究センター長・河田恵昭氏の基調講演と、「東日本大震災津波における教訓」と題して、岩手県沿岸広域振興局長・佐々木和延氏の特別講演が行われ、後半はパネルディスカッションが行われた。



あいち広域連携シンポジウム

12 月 5 日 (土)、本会災害救護赤十字奉仕団の活動として、笠寺支部会員の 2 名 (倉橋健司、矢野康治) が、名古屋駅周辺で実施された「NHK 海外たすけあい」(第 33 回) に参加し、午後 1 時から 2 時 30 分まで街頭募金活動を行いました。



「NHK海外たすけあい」募金活動

今回我々は人通りの多い名古屋駅交番前に配置され、市民の皆様から箱が重く感じる程たくさんの募金を入れて頂き、充実したボランティア活動でした。

(笠寺支部長 倉橋健司)

## Welcome!! 新入会員

氏名	渡邊隆文	原 和樹
生年月日	S53.11.11	H2.9.17
支部	中村	一宮
出身校	米田柔整	米田柔整
段位	初段	初段
趣味	映画鑑賞	ランニング



渡邊会員



原会員